

新学術領域

「顔・身体学」主催

公開シンポジウム

シンクロする身体

—ポストコロナ社会における身体の未来像—

現在、新型コロナウイルスの流行によりリモート社会が進展し、人と人との関係が大きく変化しつつあります。本シンポジウムでは「シンクロする身体」をテーマとして、1998年ソウル五輪シンクロナイズドスイミング・デュエット競技銅メダリストの小谷実可子氏・田中ウルヴェ京氏を特別ゲストにお迎えし、ポストコロナ時代を見据えた身体の未来像について講演とパネルディスカッションを行います。



小谷 実可子
ソウル五輪
シンクロナイズド
スイミング
ソロ/デュエット
銅メダリスト



田中ウルヴェ 京
ソウル五輪
シンクロナイズド
スイミング
デュエット
銅メダリスト



山口 真美
中央大学



吉田 ゆか子
東京外国語大学



渡邊 克巳
早稲田大学



大須 理英子
早稲田大学



工藤 和俊
東京大学

2021
11/7
日

オンライン開催 14:00~16:30
参加費無料

参加登録制(先着 500名)



QRコードもしくはホームページより申し込み <http://kao-shintai.jp/>

主催：科学研究費助成事業 新学術領域研究「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築—多文化をつなぐ顔と身体表現—」

共催：科学研究費助成事業 20H04069・18K19729

問い合わせ先：contact@kao-shintai.jp

シンクロする身体 —ポストコロナ社会における身体の未来像—

PROGRAM

- 13:30** 開場
- 14:00-14:10** 「開会挨拶」
山口真美 (中央大学)
- 14:10-14:35** 「バリ芸能にみる『一つになる身体』と『共にある身体』」
吉田 ゆか子 (東京外国語大学)
- 14:35-15:00** 「無意識にシンクロする身体」
渡邊 克巳 (早稲田大学)
- 15:00-15:15** 休憩
- 15:15-15:45** 対談「シンクロする身体・シンクロする社会」
小谷 実可子・田中ウルヴェ 京
- 15:45-16:30** パネルディスカッション「ポストコロナの身体」
指定討論者 大須 理英子 (早稲田大学)
司会 工藤 和俊 (東京大学)



小谷 実可子



田中ウルヴェ 京

出演者

小谷 実可子

1988年ソウル五輪シンクロナイズドスイミング・ソロおよびデュエット銅メダリスト。都民栄誉賞、ビッグスポーツ賞、総理大臣銀杯受賞。日本オリンピック委員会広報員、長野オリンピック広報員、国際オリンピック委員、東京五輪・パラリンピック大会組織委で競技の運営を担うスポーツディレクターを歴任。1997年11月、国連総会に出席しスポーツと平和に関連する議題で講演。世界大会のリポーター、東京2020招致アンバサダーを務めるなど国際的に活動する一方、自身がコーチを務めるクラブでアーティスティックスイミングの魅力を伝承している。

田中ウルヴェ 京

1988年ソウル五輪シンクロナイズドスイミング・デュエット銅メダリスト。日・米・仏のシンクロ代表チームコーチを10年間歴任。91年渡米、米国大学院で修士修了、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科博士課程単位取得退学(専門はスポーツ心理学、競技引退)。日本スポーツ心理学会認定メンタルトレーニング上級指導士。2017年、国際オリンピック委員会 (IOC) マーケティング委員就任。トップアスリートから経営者・医師・研究者等に心理コンサルティングを行う。フランス人の夫と一男一女の母。

山口 真美

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人間発達学専攻修了後、ATR 人間情報通信研究所・福島大学生涯学習教育研究センターを経て、中央大学文学部心理学研究室教授。博士(人文科学)。日本赤ちゃん学会副理事長、日本顔学会・日本心理学会理事。新学術領域「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築—多文化をつなぐ顔と身体表現—」領域代表。著書に、「こころと身体の心理学」(岩波ジュニア新書)、「自分の顔が好きですか?—「顔」の心理学」(岩波ジュニア新書)、「発達障害の素顔 脳の発達と視覚形成からのアプローチ」(講談社ブルーバックス)など。

吉田 ゆか子

2012年筑波大学大学院博士(学術)。国立民族学博物館機関研究員、日本学術振興会特別研究員PD、アジア・アフリカ言語文化研究所助教を経て、2020年より東京外国語大学アジア・アフリカ研究所准教授。専門は文化人類学。芸能、宗教、身体、モノ、わざと環境、をテーマに、特にバリ、ジャカルタ、日本におけるバリ芸能の展開を追っている。主な著作は『バリ島仮面舞踊劇の人類学—人とモノの織りなす芸能』(単著、風響社)。

渡邊 克巳

カリフォルニア工科大学計算科学-神経システム専攻博士課程修了。東京大学先端科学技術研究センター准教授などを経て、現在、早稲田大学理工学術院教授。人間の心という主観的な現象に対して、認知科学・心理学・脳神経科学等の最先端の方法を使って、心を作り出している意識的・無意識的過程の科学的解明、認知科学のその他の研究分野への拡張、それらの知見の産学連携を通じた社会への還元を行っている。

大須 理英子

1996年京都大学大学院文学研究科(心理学専攻)にて博士(文学)取得。ERATO/川人学習動態脳プロジェクト研究員、ATR 脳情報研究所主任研究員、同運動制御・機能回復研究室室長を経て2015年よりニールセン・カンパニー合同会社ニューロサイエンスディレクター、2017年より早稲田大学人間科学学術院教授。認知神経科学、システム神経科学を専門とし、生体の運動制御や学習、ニューロリハビリテーションなどに取り組んでいる。

工藤 和俊

1998年、東京大学大学院総合文化研究科生命環境科学系修了、博士(学術)取得。2002-2003年、米国コネチカット大学知覚と行為の生態学研究センター客員研究員。東京大学大学院総合文化研究科助手・助教を経て、現在、東京大学大学院総合文化研究科准教授。身体運動の実技実践と認知神経科学・複雑系数理科学的アプローチを用いた研究を通じて、スポーツ・ダンス・音楽演奏等のパフォーマンスを支える「巧みさ」の解明を目指している。